古典名作選(1)

A

筒井筒井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

井戸の枠と背比べをしていた私の背丈も、その高さを越してしまったようです。あなたを見ない間に。

「伊勢物語」(筒井筒)

B

「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の中に籠めたりつるものを。」とて、いと口惜しと思へり。

「雀の子を犬君(遊び相手の童女)が逃がしてしまったの。伏せた籠の中に入れておいたのに。」と言って、とても残念そうである。

「源氏物語」(若紫)　紫式部

C

心なき身にもあはれは知られけり鴫立つ沢の秋の夕暮

ものの趣を感じることのない(出家した)この身にも、しみじみとした趣が感じられる。鴫が飛び立つ沢の秋の夕暮れよ。

「新古今和歌集」(秋歌上)　西行法師

D

花は盛りに、月は隈なきをのみ、見るものかは。

花は盛りのものだけを、月はかげりのないものだけを、見るものだろうか。いや、そうではない。

「徒然草」(第百三十七段)　兼好法師

E

是非初心忘るべからず。

良いことも悪いことも、初めて体験したときのことを忘れてはならない。

「花鏡」　世阿弥

各句の出典

●**伊勢物語**
平安時代に成立した歌物語。作者は不明。本文は主人公が幼なじみの女性に求婚する場面。

●**源氏物語**
平安時代に成立した物語文学。本文は主人公の光源氏が、幼少期の紫の上を見かける場面。

●**新古今和歌集**
鎌倉時代に成立した勅撰和歌集。象徴による表現を用いた歌や余情にあふれる歌が多く収められている。

●**徒然草**
鎌倉時代末期に成立した随筆。無常観を基調として、自らの人生観、美意識がつづられている。

●**花鏡**
室町時代に成立した能楽書。世阿弥は能を大成した人物で、「花鏡」には能の芸道論がつづられている。

確認テスト 各句を読んで、問いに答えなさい。

(1) **A**はどのような場面か。適当なものを選びなさい。

ア 幼い主人公と幼なじみが、井戸の枠と背比べをする場面。
イ 幼なじみの二人が成長し、恥ずかしがって会わなくなる場面。
ウ 主人公が、疎遠になっていた幼なじみの女性に求婚する場面。

〔　　〕

(2) **B**について、何を残念に思っているのか。適当なものを選びなさい。

ア 籠の中に入れておいた雀を、犬君が逃がしてしまったこと。
イ 逃がしたと思った雀を、犬君が籠の中に入れておいたこと。
ウ 犬君が籠に入れておいた雀を、自分が逃がしてしまったこと。

〔　　〕

(3) **C**の歌の内容に合うものを選びなさい。

ア 出家した身なので、沢の夕暮れの景色の趣がわからなかった。
イ 出家した身にも、沢の夕暮れの景色の趣は感じられた。
ウ 出家した身には、沢の夕暮れの景色の趣は知られていない。

〔　　〕

(4) **D**について、「見るものかは」の意味を選びなさい。

ア 見るものなのである。
イ 見るものかもしれない。
ウ 見るものだろうか。いや、そうではない。
エ 見るものであるかはわからない。

〔　　〕

(5) **E**の言葉の意味を選びなさい。

ア 良いことも悪いことも、初めて体験したときのことを忘れてはならない。
イ その時々で、初めて体験することの一つひとつを大切にすれば、忘れるはずがない。
ウ 年を重ねても初めて体験することがあるのだということは、忘れがちである。

〔　　〕